有田内山歴史地区（詳細）

内山は、有田地域の磁器製造業の歴史的な中心地でした。1600 年代初頭に泉山採石場で陶石が発見され、高品質の磁器が生産されるようになり、藩はこの地域の情報や資源の流れを厳しく管理するようになりました。佐賀藩は、唯一の出入り道路を警備していました。

1828 年、台風からの猛烈な風により文政の大火が発生し、地区内の窯元から出た火が内山地区中に広がり、地区にある建物はほとんどが全焼してしまいました。その大火を免れた数少ない建物のうち今も残っているのは 1 棟だけです。2024 年現在、地区内では、1800 年から 1950 年にかけて建てられた 164 の建物が歴史的建造物に指定されており、1991 年には一帯が国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されました。建物は日本の伝統様式と西洋様式が組み合わさっており、多くがカフェやギャラリー、ショップに姿を変えています。一部の裏通りには、古い登り窯（山の斜面に築かれた大規模な窯）から出た廃レンガで作ったトンバイ塀があります。

有田陶磁美術館と旧田代（たしろ）家西洋館はどちらも明治時代（1868-1912）初期に建てられ、歴史的建造物群保存地区の一角に位置しています。地区内の各建物には有田焼で作った六角形の小さな銘板が付けられており、建築された年や時代が記されています。